



## 目次

❖ 事業概要	---	2
❖ 第13期(平成23年3月期)の業績	---	20
❖ 第14期(平成24年3月期)の業績予想	---	26
❖ 株式分布・主要株主	---	28

# 事業概要

---

---

---

---

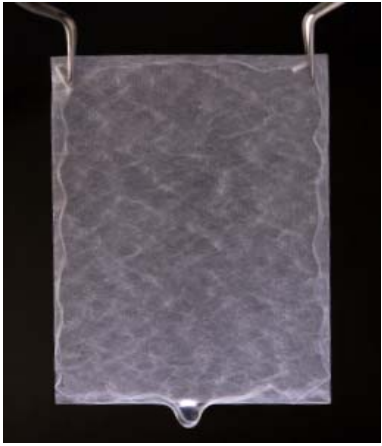

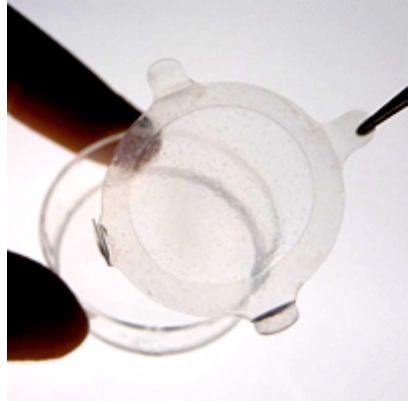
---

# 再生医療製品事業

## 自家培養表皮

## 自家培養軟骨

## 自家培養角膜上皮

<p>開発製品の 外観</p>			
<p>基本技術 の導入元</p>	<p>米ハーバード大学 Howard Green 教授</p>	<p>広島大学 越智 光夫 教授</p>	<p>伊ベネトアイバンク、 伊モデナ大学 Michele De Luca 博士 Graziella Pellegrini 博士、 株式会社セルシード</p>
<p>適応疾患 (軟骨と角膜 上皮は想定)</p>	<p>重症熱傷 〔 深達性Ⅱ度熱傷創及び Ⅲ度熱傷創の合計面積が 体表面積の30%以上 〕</p>	<p>膝関節の全層軟骨欠損 〔 事故等の一過性の外力や スポーツ等の反復的な外力 による軟骨の欠損 〕</p>	<p>化学傷、熱傷、スティーブンス・ ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、 角膜感染症、再発翼状片</p>
<p>進捗状況</p>	<p>製造承認を取得(H19.10)、 保険収載(H21.1)</p>	<p>製造販売承認申請 の提出(H21.8)</p>	<p>確認申請の準備中</p>

# ジェイス事業展開上の条件

## 製造販売承認の条件

**[適応対象] 深達性Ⅱ度+Ⅲ度 ≥30%**

1. 本品の適応対象を適切に治療できる医療機関において、重症熱傷症例の治療に十分な知識・経験のある医師により、本品の有効性及び安全性を理解した上で用いられるよう、適切な措置を講じること。
2. 治験症例が極めて限られていることから、本品の有効性及び安全性を確認するための**製造販売後臨床試験を実施し、その結果を速やかに報告すること。**
3. 治験症例が極めて限られていることから、**原則として再審査期間が終了するまでの間、全症例を対象とした使用成績調査を実施し、**本品の有効性及び安全性に関する情報を早期に収集し、その結果については定期的に報告すること。
4. 製造販売後臨床試験及び使用成績調査の**結果等については、迅速に公開**するとともに、使用する医師、医療機関に対し適切に情報提供し、患者に対する情報提供資料にも適切に反映すること。
5. 本品の製造過程にフィーダー細胞として用いられるマウス胎児由来3T3-J2細胞にかかる異種移植に伴うリスクを踏まえ、新たな取扱いの基準が定められるまでの間、**最終製品のサンプル及び使用に関する記録を30年間保存**するなど適切な取扱いが行われるよう必要な措置を講じること。

## 保険算定に関する留意事項

**[保険償還価格] 306,000円/枚**

《H21.1.1～H22.3.31》

- ア 自家植皮のための患皮面積が確保できない重篤な広範囲熱傷で、かつ、受傷面積として深達性Ⅱ度熱傷創及びⅢ度熱傷創の合計面積が体表面積の30%以上の熱傷の場合であって、創閉鎖を目的として使用した場合に、**一連につき20枚を限度として算定**する。
- イ 深達性Ⅱ度熱傷創への使用は、Ⅲ度熱傷と深達性Ⅱ度熱傷が混在し、分けて治療することが困難な場合に限る。
- ウ 凍結保存皮膚を用いた皮膚移植術を行うことが可能であって、**広範囲熱傷特定集中治療室管理料の施設基準の届出を行っている保険医療機関**において実施すること。
- エ ヒト自家移植組織を使用した患者については、診療報酬請求に当たって、診療報酬明細書に症状詳記を添付する。

《H22.4.1～》

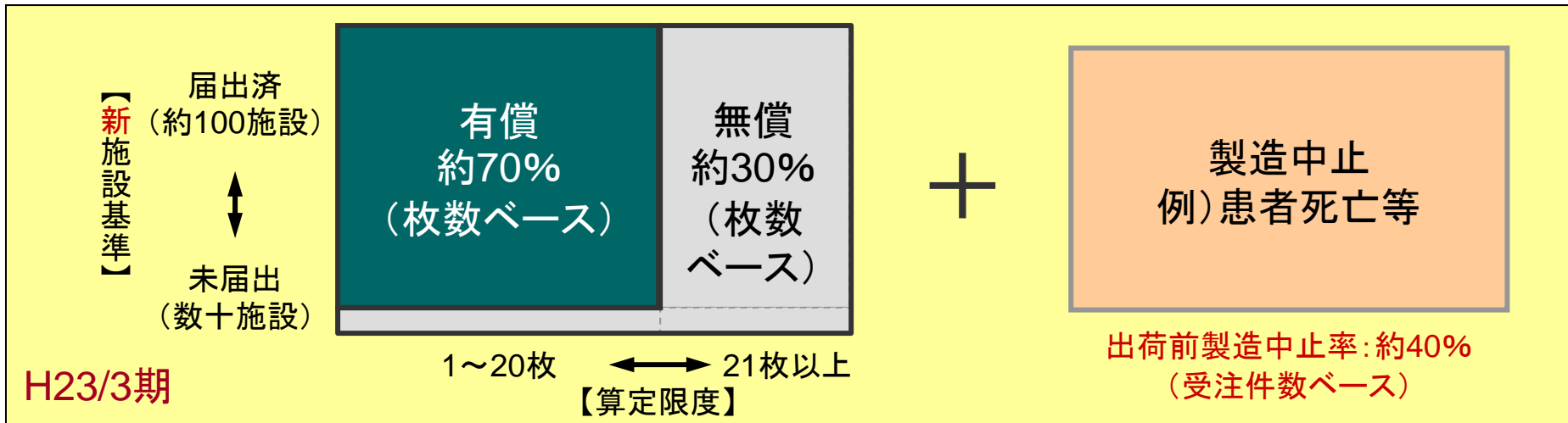
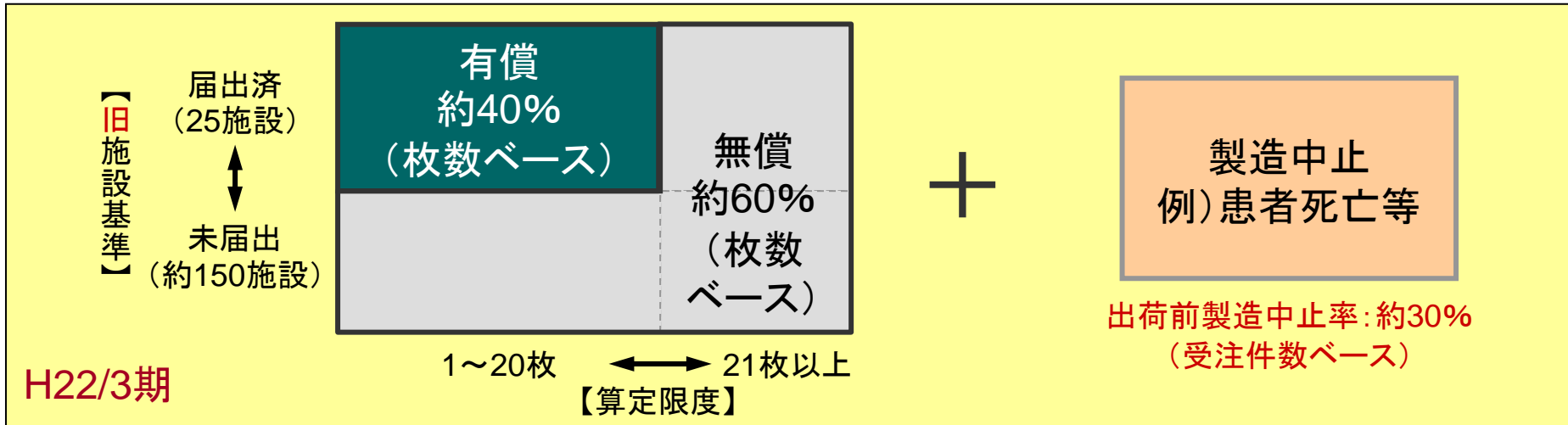
(前略)

- ウ 凍結保存皮膚を用いた皮膚移植術を行うことが可能であって、**救命救急入院料3、救命救急入院料4又は特定集中治療室管理料2の施設基準の届け出を行っている保険医療機関**において実施すること。

(後略)

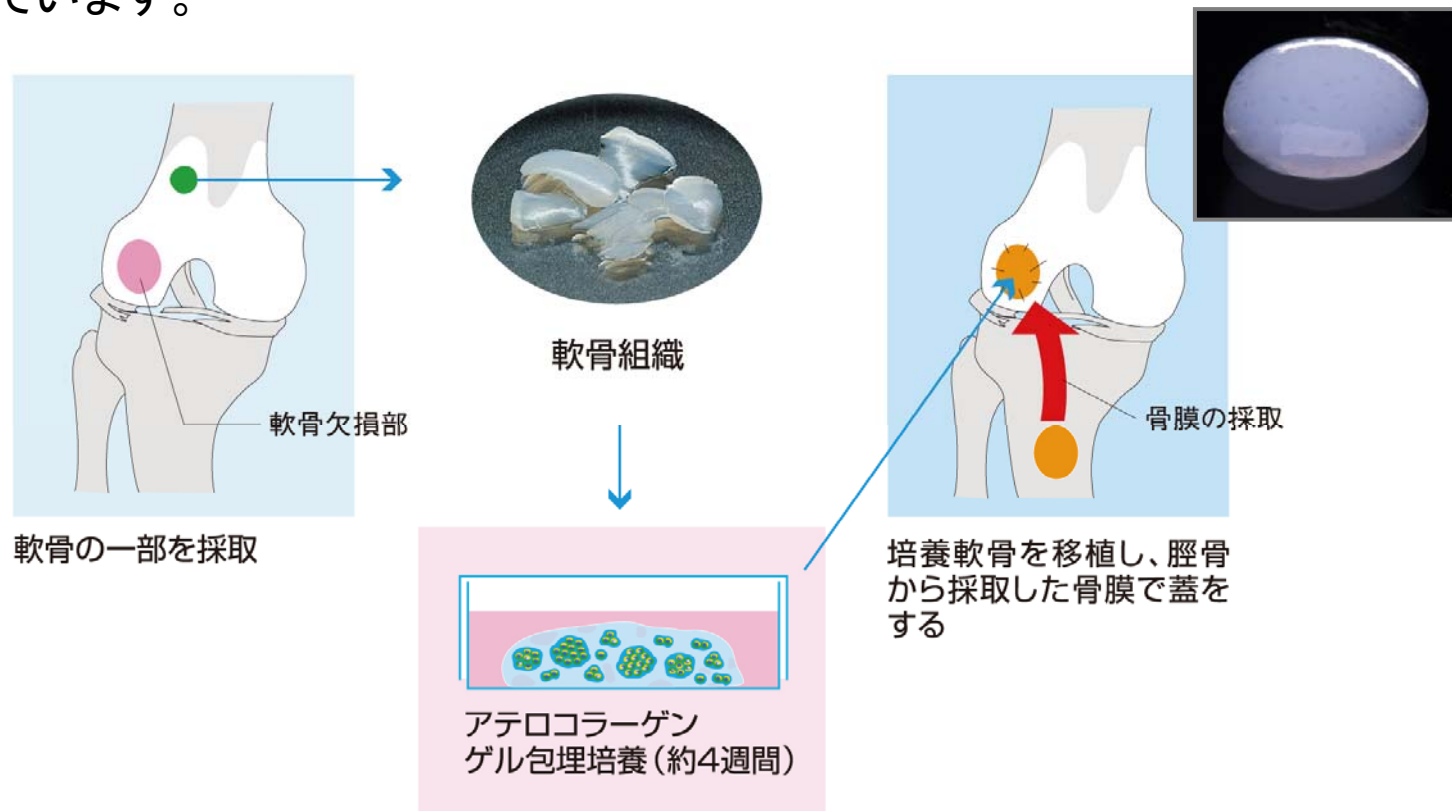
# ジェイスの受注・出荷動向

- ❖ 平成22年4月1日の診療報酬改定時の施設基準の変更に伴い、平成23年3月期は有償出荷が増えた一方で、出荷前製造中止率が上昇しました。



# 自家培養軟骨の進捗状況

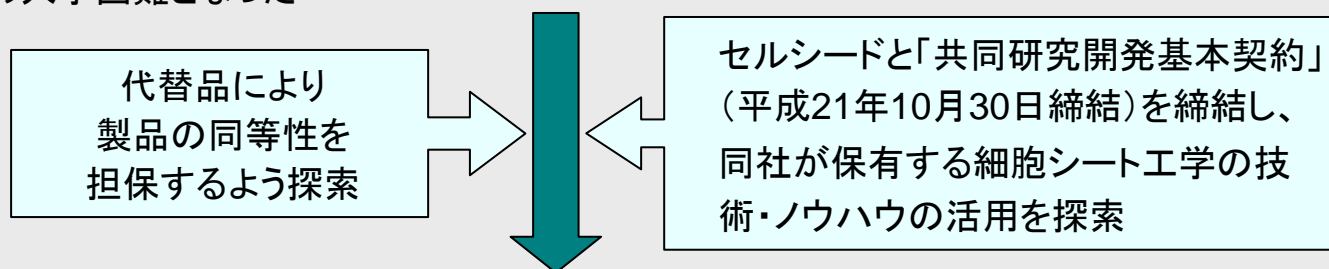
- ❖ 平成21年8月に承認申請(想定する適応疾患:膝関節の全層軟骨欠損)後、照会事項への対応を進めています。
- ❖ 平成24年3月期の上期までの承認取得に向けて取り組んでいます。
- ❖ 既存設備での生産準備と並行して、追加製造設備の導入準備、販売体制の検討を進めています。



## 自家培養角膜上皮の仕様変更について

- ❖ 自家培養角膜上皮の開発は、株式会社ニデックから委託を受けています。この度、製品仕様を一部変更して開発を進めることをニデックと合意しました。具体的には、ベネトアイバンクから導入した技術を改良し、株式会社セルシードの細胞シート工学を活用した製品仕様に変更します。
- ❖ 早期に確認申請に適合し、速やかに治験を実施するよう努めます。

開発を進める中で、細胞の基材として使用する特定の原材料が、製造元による日本国内への供給停止のため入手困難となった

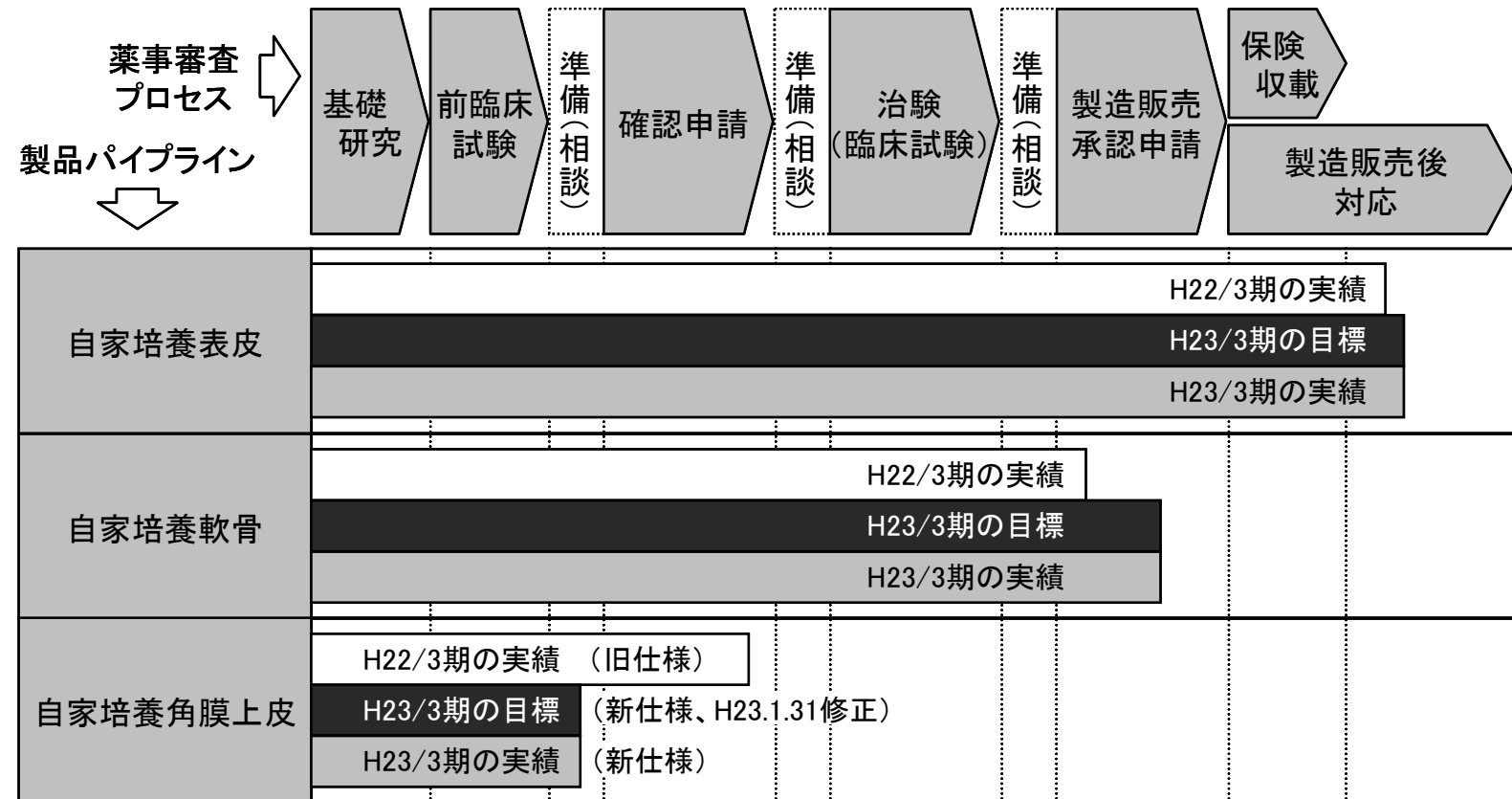


セルシードの温度応答性培養器材に関する基礎研究を行い、当該特定の原材料ではなく温度応答性培養器材を使用しても同等の有効性が期待できる基礎データを得ることができた

**製品仕様の一部を変更することを決定**  
(平成23年1月31日 取締役会決議)

# 平成23年3月期の開発実績

❖ 平成24年3月期に向けての目標は、自家培養軟骨の承認取得と、自家培養角膜上皮の開発を加速することです。



出所) 平成23年3月期 第4四半期マイルストーン開示(当社事業計画の進捗状況等について)(H23.4.28開示)  
 注) 確認申請、治験、製造販売承認申請の各プロセス直前の準備段階では、独立行政法人医薬品医療機器総合機構が提供する各種相談制度を活用することが推奨されている。但し、当該相談制度の活用は、必須ではない。

# 再生医療製品事業の主要な成果(1)

## 自家培養表皮

当期の進捗目標	第4四半期・通期の成果(前提条件との対比、定性的情報を含む)
売上 215百万円 (予算修正後)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 売上高実績は219百万円で達成率101.6%、対前期比197.7%となりました。</li> <li>● ジェイス採用施設数は約100施設になりました。今後も採用施設の開拓を進めます。</li> <li>● 患者死亡等の理由による第4四半期の出荷前製造中止率は、受注ベースで半数を超えました。通期でも4割強でした。</li> <li>● 保険算定に関する留意事項の一つである算定限度(枚数制限)の問題を中心に、規制当局と意見交換および協議を進めました。</li> <li>● ジェイス事業の効率化、採算性の改善を目的として、生産部門の改善活動に加え、営業面では代理店の開拓ならびに物流システムの構築を展開しました。</li> </ul>
製造販売後 調査等の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製造販売後臨床試験は、年度初めに計画した症例数よりも少ない症例エントリーとなりましたが、適切に試験を進めました。また、新規試験施設との契約を進めました。</li> <li>● 使用成績調査は、4年次に入りました。引き続き、全症例の調査を進めました。また、3年次使用成績調査報告書に対する照会事項への対応を進めました。</li> </ul>

## 再生医療製品事業の主要な成果(2)

### 自家培養軟骨

当期の進捗目標	第4四半期・通期の成果 (前提条件との対比、定性的情報を含む)
製造販売承認に向けた活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 医薬品医療機器総合機構から発せられた照会事項への対応を進めました。平成24年3月期の上期までの承認取得に向けて取り組んでいます。</li> </ul>
製造・販売体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本社棟3階における生産準備を進めました。4階部分への追加製造設備の導入に関する検討を進めました。</li> <li>● 物流や代理店施策等の販売体制、ならびに価格戦略の検討を進めました。</li> </ul>

### 自家培養角膜上皮



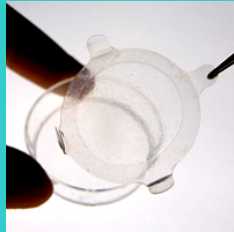
当期の進捗目標	第4四半期・通期の成果 (前提条件との対比、定性的情報を含む)
確認申請提出に向けた準備 (計画修正後)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製品仕様を一部変更して開発スピードを加速するという方針(平成23年1月31日開示)のもと、旧仕様の確認申請を取り下げました。</li> <li>● 新仕様のもとで必要な実験データを収集し、確認申請書の作成を進めました。</li> </ul>

# 研究開発支援事業の主要な成果

## 研究用ヒト培養組織

当期の進捗目標	第4四半期・通期の成果（前提条件との対比、定性的情報を含む）
売上 43百万円 (予算修正後)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 売上高実績は43百万円で達成率100.2%、対前期比109.7%となりました。</li> <li>● ラボサイトシリーズの新規顧客開拓とユーザーからの受託試験を積極的に展開しました。</li> <li>● JaCVAM(日本動物実験代替法検証センター)とOECD(経済協力開発機構)によるラボサイトを使用した皮膚刺激性試験の標準化作業に協力しました。当期末時点では、標準化の結果が発出されていません。</li> </ul>

# 市場規模と競合環境

		自家培養表皮ジェイス	自家培養軟骨	自家培養角膜上皮
				
国内市場規模 〔当社が想定する 年間売上〕		10～30億円 (重症熱傷のみ)	数百億円	数十億円
類似 製品 ・ 競合 企業	国内	なし	なし	3社が開発中 1. 当社 (確認申請準備中) 2. A社 (確認申請適合) 3. C社 (確認申請準備中)
	海外	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 米 Genzyme 社が Epicel を 1987 年から販売。</li> <li>● Green 型表皮は、フランス、韓国、イタリア等でも販売。</li> <li>● 同種製品も商用化済み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 米 Genzyme 社が Carticel を 1997 年から販売。</li> <li>▼ Carticel 型軟骨は、英国、ドイツ、韓国等でも販売。</li> <li>▼ TiGenix 社 ChondroCelect が EMEA 初の膝関節軟骨の承認取得 (2009.10)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ イタリア Veneto Eye Bank が数年前から販売。 (当社は Veneto Eye Bank から技術導入している)</li> <li>■ C 社はリヨン大学と協働し、フランスで治験が完了。承認申請予定。</li> </ul>

# ジェイスの適応拡大に向けた取り組み

- ❖ 自家培養表皮ジェイスが表皮水疱症治療を目的とした希少疾病用医療機器に指定されました。治験を実施し、適応拡大に向けて承認申請を行います。



平成 23 年 3 月 18 日

各位

会社名	株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
代表者氏名	代表取締役社長 小澤 洋介 (コード番号：7774 JQ)
本店所在地	愛知県蒲郡市三谷北通 6 丁目 209 番地の 1
問合せ先	取締役経営管理部長 大林 正人
電話番号	0 5 3 3 - 6 6 - 2 0 2 0 (代表)

## 自家培養表皮ジェイス<sup>®</sup>：表皮水疱症治療を目的とした希少疾病用医療機器に指定

平成 23 年 3 月 18 日付厚生労働省告示第五十九号にて、薬事法（昭和三十五年法律第百四十五号）第七十七条の二第一項の規定に基づき、当社自家培養表皮ジェイス<sup>®</sup>が表皮水疱症治療を目的とした希少疾病用医療機器に指定されましたのでお知らせいたします。

# 表皮水疱症の発症原因

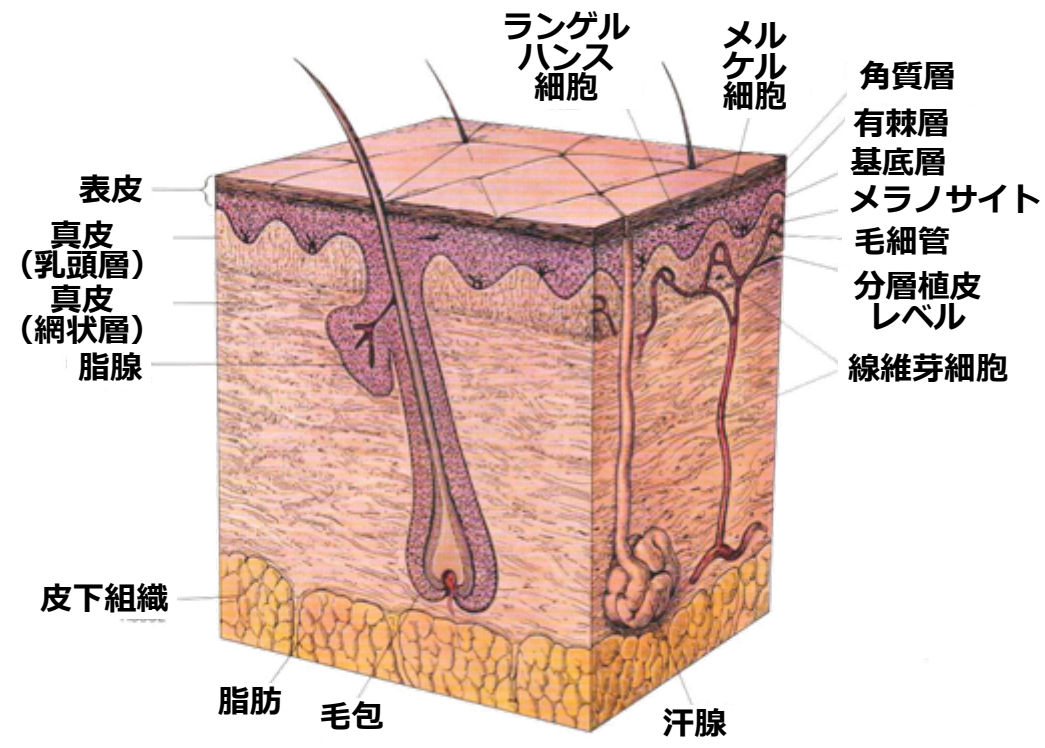


稀少難病・表皮水疱症の子どもたちに  
**痛みのない毎日を**

全身に水疱ができる。皮膚がむける。指がゲーになる。  
 強く抱きしめるとこわれてしまう皮膚を持った子どもたち。  
 それが毎日。それが一生。それが表皮水疱症という難病です。  
 私たちは痛みと共に生きるため、痛みのない治療ケアの実現を願っています。

**表皮水疱症 友の会**  
 Epidermolysis Bullosa com.

2009年署名活動開始! 「皮膚治療ケアの医療援助」を要望します。  
 薬と同じ皮膚代わりのガーゼや包帯、痛みのないシリコンドレッシング材、表皮水疱症と生きるための医療援助を求める署名活動にご協力ください。  
 \*ホームページから署名用紙がダウンロードできます。URL: [www.ne.jp/asahi/eb-japan/com/](http://www.ne.jp/asahi/eb-japan/com/)  
 表皮水疱症友の会 DeBRA Japan TEL011-726-5170 FAX011-738-9556 Email: [debrajapan@gmail.com](mailto:debrajapan@gmail.com) 寄付金によるご寄付も受け付けています。郵便振込口座 02710-6-40092



H.Green: *SCIENTIFIC AMERICAN* Nov (1991)

# 希少疾病用医療機器

「希少疾病用医療機器」とは、希少疾病用医療機器の指定を受けた医療機器（薬事法に基づき厚生労働大臣が指定）で、優先的に審査される医療機器です。希少疾病用医療機器の指定には、当該医療機器の用途に係る対象患者数が本邦において5万人未満であること、また、代替する適切な医療機器又は治療法が無い、既存の医療機器と比較して著しく高い有効性又は安全性が期待されるなどの医療上特に優れた使用価値を有することが必要とされています。

当該指定を受けた場合には、試験研究費に対する助成金の交付、優先的な治験相談および優先審査の実施、再審査期間の延長等の優遇措置が受けられます。

(出所：独立行政法人医薬品医療機器総合機構、独立行政法人医薬基盤研究所のホームページ)



平成23年3月4日、表皮水疱症友の会ご来社

# iPS細胞由来網膜色素上皮細胞に係る共同研究

- ❖ 理化学研究所および先端医療振興財団ならびに当社は、「iPS細胞由来網膜色素上皮細胞移植による加齢黄斑変性治療の臨床研究」を三者間で進めることに合意し、「共同研究契約」を締結しました。



平成23年4月28日

各位

会社名	株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
代表者氏名	代表取締役社長 小澤 洋介 (コード番号: 7774 JQ)
本店所在地	愛知県蒲郡市三谷北通6丁目209番地の1
問合せ先	取締役経営管理部長 大林 正人
電話番号	0533-66-2020(代表)

## 「iPS細胞由来網膜色素上皮細胞移植による加齢黄斑変性治療の臨床研究」 に関する共同研究契約の締結のお知らせ

平成23年4月1日、独立行政法人理化学研究所（以下、理研）および財団法人先端医療振興財団（以下、FBRI）ならびに株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング（以下、J-TEC）は、「iPS細胞由来網膜色素上皮細胞移植による加齢黄斑変性治療の臨床研究」を三者間で進めることに合意し、「共同研究契約」を締結しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

# iPS網膜色素上皮開発の役割分担

- ❖ (独)理化学研究所および(財)先端医療振興財団ならびに当社は、3者共同で臨床研究を進め、iPS細胞を用いた網膜再生医療の早期実現を目指します。

## 3者間契約の 目的

患者自身のiPS細胞を利用して  
網膜色素上皮細胞を開発し  
加齢黄斑変性治療のための  
臨床研究を実施する

理化学研究所  
研究成果



先端医療振興財団  
臨床研究



## ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング

培養プロトコルの確立  
品質規格化技術の確立  
臨床研究プロトコルの作成、等を担当

# シンガポール駐在員事務所開所

- ❖ グローバル展開の第一歩として、当社の再生医療技術・製品をシンガポールを拠点として世界展開することの事業可能性を、本格的に評価します。



JTC Summit外観(事務所ビル 27F)

2010年12月1日 駐在員事務所開所

シンガポールHSA(規制当局)と  
EDB(経済開発庁)と密接に協働する

メディカルツーリズムも対象として  
医療+美容分野に取り組みたい

工場用地は別途用意する

シンガポールをハブとして  
アジア全域+中東を事業対象とする

営業キャッシュフローを追求する

## 富士フイルムとの資本・業務提携

### ❖ 第三者割当による新株式発行の概要:

- (1) 発行期日 : 平成22年10月29日
- (2) 発行新株式数 : 当社普通株式75,500株
- (3) 発行価額 : 1株につき金53,000円
- (4) 発行価額の総額 : 4,001,500,000円
- (5) 募集又は割当方法 : 第三者割当の方法による  
(割当先) 富士フイルム株式会社 75,500株

### ❖ 第三者割当の目的と割当先の選定理由:

《目的》財務体質を強化し安定した経営基盤を構築すること

《選定理由》事業シナジー(相乗効果)が期待できること

(補足) 画像診断システム、高機能材料、創薬、ヘルスケア、グローバルネットワークが強み。富山化学工業と兄弟会社である

### ❖ 業務提携の進捗状況:

- (1) 経営への参画 : 富士フイルムから当社に社外取締役を派遣
- (2) 運営委員会の開催 : 製品・事業開発領域の探索ならびに優先順位付け
- (3) 人材交流 : 富士フイルムの研究者が当社開発部門に常駐



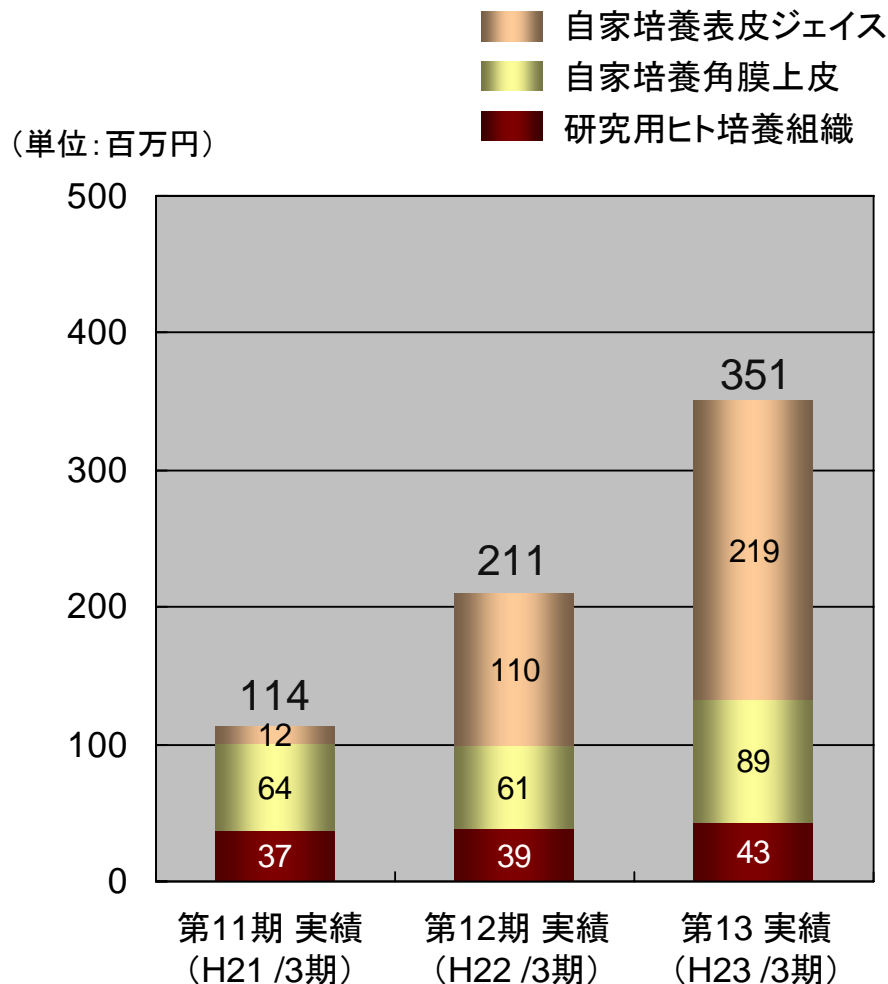
## 業績概況

- ❖ 第13期の売上高は、自家培養表皮ジェイスの売上増加により、第12期に対し、140百万円増加の351百万円となりました。ジェイス売上増加の主要因は、平成22年4月の診療報酬改定に伴い、ジェイスの採用施設数が増加したことによります。
- ❖ 第13期の当期純損失は、製造・営業部員増強による人件費の増加およびジェイスの販売促進活動費等の増加により、1,156百万円となりました。

(単位:百万円)

	第12期	第13期	第12期比 増減
売上高	211	351	140
売上総利益	16	△11	△27
販売費及び一般管理費	1,083	1,134	51
営業利益	△1,067	△1,145	△78
経常利益	△1,096	△1,153	△57
当期純利益	△1,099	△1,156	△57

# 売上実績推移



## 【自家培養表皮ジェイス】

❖ 第13期実績は、規制緩和(保険償還基準変更)を受け、一年間を通じて販売活動を展開した結果、第12期実績に比べ倍増しました。

## 【自家培養角膜上皮(受託開発収入)】

❖ 平成23年1月、製品仕様の一部を変更することを決定し、速やかに旧仕様の確認申請を取り下げると同時に、新仕様のもとで開発を進めました。

## 【研究用ヒト培養組織】

❖ 拡販に努める一方で、JaCVAM(日本動物実験代替法検証センター)とOECD(経済協力開発機構)によるラボサイトを使用した皮膚刺激性試験の標準化作業に協力しました。

# 財務概況(1)

## 【資産の部】

(単位:百万円)

	第12期 (H22 /3期)	第13期 (H23 /3期)	増減
<b>流動資産</b>	1,644	4,356	2,712
現金及び預金	1,475	4,182	2,707
その他	169	173	4
<b>固定資産</b>	1,546	1,461	△85
有形固定資産	1,498	1,417	△81
(建物)	874	812	△62
(土地・その他)	624	605	△19
無形固定資産	42	36	△6
投資その他の資産	5	8	3
<b>繰延資産</b>	6	13	7
<b>資産合計</b>	<b>3,197</b>	<b>5,831</b>	<b>2,634</b>

### 流動資産:

❖ 営業活動による支出(1,012百万円)、新規借入(300百万円)及び返済(539百万円)、第三者割当増資による収入(3,988百万円)等により、4,356百万円となりました。

### 固定資産:

❖ 固定資産の取得(20百万円)及び減価償却費(106百万円)等により、1,461百万円となりました。

## 財務概況(2)

- ❖ 負債合計は、借入(300百万円)及び返済(539百万円)等により、1,343百万円となりました。(固定負債に含まれる長期借入金残高:764百万円)
- ❖ 純資産合計は、第三者割当増資及び新株予約権の行使による資本金及び資本剰余金の増加(各2,002百万円)及び当期純損失(1,156百万円)により、4,488百万円となりました。

### 【負債の部】

(単位:百万円)

	第12期 (H22 /3期)	第13期 (H23 /3期)	増減
流動負債	436	472	36
短期借入金	239	244	5
その他	197	228	31
固定負債	1,119	871	△248
負債合計	1,556	1,343	△213

### 【純資産の部】

(単位:百万円)

	第12期 (H22 /3期)	第13期 (H23 /3期)	増減
資本金	5,714	7,716	2,002
資本剰余金	3,544	5,546	2,002
利益剰余金	△7,618	△8,775	△1,156
純資産合計	1,641	4,488	2,847
負債及び純資産合計	3,197	5,831	2,634

# キャッシュ・フロー計算書概況

(単位:百万円)

	第12期 実績 (H22 /3期)	第13期 実績 (H23 /3期)	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,021	△1,012	△9
投資活動によるキャッシュ・フロー	244	△908	△1,152
財務活動によるキャッシュ・フロー	834	3,748	2,914
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5	△23	△18
現金及び現金同等物の増減額(△:減少額)	58	1,828	1,770
現金及び現金同等物の期首残高	956	1,014	58
現金及び現金同等物の期末残高	1,014	2,842	1,828

- ❖ 営業活動によるCF: 税引前当期純損失1,153百万円等により、△1,012百万円となりました。
- ❖ 投資活動によるCF: 定期預金の預入による支出(1,680百万円)、払戻による収入(801百万円)、固定資産の取得(25百万円)等により、△908百万円となりました。
- ❖ 財務活動によるCF: 短期借入金の借入(300百万円)及び返済(539万円)、第三者割当増資(3,988百万円)等により、3,748百万円となりました。
- ❖ 現金及び現金同等物の期末残高: 期首残高1,014百万円に対し、期末残高は2,842百万円となりました。  
 なお、貸借対照表中の現金及び預金(4,182百万円)との差額は、預入期間が3ヶ月超の定期預金(1,340百万円)分に該当します。



## 第14期通期 業績予想

- ❖ 第14期の売上高は、ジェイスの「保険適用に関する留意事項」の一つである施設基準の緩和を受け、売上可能となる施設数が拡大したことにより増加する見込みです。一方、当期純損失は、ジェイスの営業活動を中心とした人件費、その他開発製品の研究開発費等により、第13期と同程度を見込んでいます。

(単位:百万円)

	第13期 通期 実績	第14期 通期 計画	第13期比 増減
売上高	351	471	120
営業利益	△1,145	△1,172	△27
経常利益	△1,153	△1,149	4
当期純利益	△1,156	△1,153	3

# 株式分布・主要株主

---

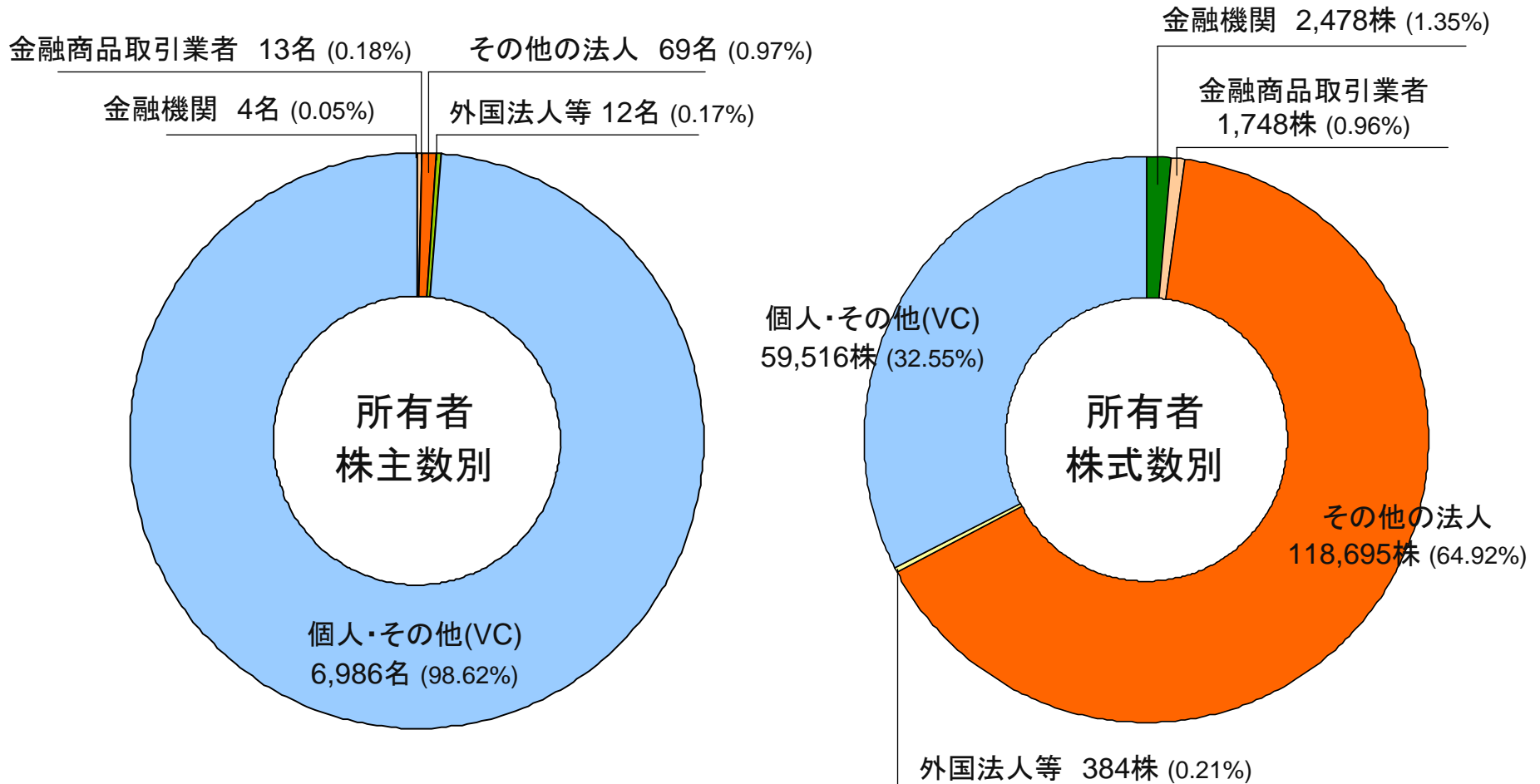
---

---

---

---

# 株式分布の状況



平成23年3月31日現在

株主数: 7,084名

発行済株式数: 182,821株

## 主要株主

- ❖ 平成23年3月31日時点で、7,084名の株主さまに支えていただいています。  
平成22年10月29日実施の第三者割当増資により、筆頭株主が異動しました。

	<u>所有株式数(株)</u>	<u>割合(%)</u>
富士フイルム(株)	<b>75,500</b>	<b>41.29</b>
(株)ニデック	<b>21,136</b>	<b>11.56</b>
富山化学工業(株)	<b>8,292</b>	<b>4.53</b>
(株)INAX	<b>4,492</b>	<b>2.45</b>
三菱UFJキャピタル(株)	<b>4,350</b>	<b>2.37</b>
桑田武志	<b>2,170</b>	<b>1.18</b>
ジャフコ・バイオテクノロジー1号投資事業有限責任組合	<b>2,015</b>	<b>1.10</b>
中部飼料(株)	<b>2,000</b>	<b>1.09</b>
三井住友海上火災保険(株)	<b>1,500</b>	<b>0.82</b>
ガステックサービス(株)	<b>1,500</b>	<b>0.82</b>
小澤洋介	<b>1,220</b>	<b>0.66</b>
J-TEC従業員持株会	<b>1,116</b>	<b>0.61</b>
その他	<b>57,530</b>	<b>31.52</b>
合計	<b>182,821</b>	<b>100.00</b>

本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。

また、当社は、事業計画に関する業績目標その他の事項の実現・達成等に関しその蓋然性を如何なる意味においても保証するものではなく、その実現・達成等に関して一切責任を負うものではありません。

本開示資料に記載されている将来に係わる一切の記述内容(事業計画に関する業績目標も含みますがそれに限られません。)は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、将来の経済環境の変化等を含む事業計画の前提条件に変動が生じた場合その他様々な要因の変化により、実際の事業の状態・業績等は影響を受けることが予想され、本開示資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング

〒443-0022 愛知県蒲郡市三谷北通6-209-1

経営管理部

TEL. 0533-66-2020 FAX. 0533-66-2019



J-TEC